



未来の
ために、
いま選ぼう。

暫定版

「おもてなし」フレームについて

～行動を理解した上での政策立案・実践の手順～

日本版ナッジ・ユニット BEST
(事務局:環境省)



Behavioral Sciences Team
for a better choice

令和2年2月13日

検討状況

- 日本版ナッジ・ユニット連絡会議では、行動に起因する社会課題の解決に向けてナッジ等の行動インサイトを活用する際に行政職員等の実務者にとって参考となる「手引き」を作成しようとした。
- これまで連絡会議で扱ってきた行動インサイトの活用事例を参考に、政策の立案から実践までの一連の流れに沿って、都度留意すべき論点を整理しながら包括的に検討できるようなフレームワークが実務者にとってわかりやすく、また、使い勝手が良いのではないかと考えられた。
- 検討の過程で、行動インサイトの活用は、公共政策における数ある政策オプションの1つに過ぎず、行動インサイトを活用した公共政策の立案・実践の手順は、一般的な公共政策の立案・実践の手順と同様であることが確認された。
- 行動インサイトに関しては、英国ナッジ・ユニットやOECDをはじめ、海外の様々な機関が独自のフレームワークを開発しており、公共政策全般についても同様。
- 一方で、行動インサイトについては日本語のフレームワークがないことから、行動インサイトに関して最も包括的であるOECDのツールキットBASICの構成や論点を参考に、これまでの連絡会議で挙げられた論点を加えて「日本版」のフレームワークに再構築することとした。
- 「日本版」のフレームワークに、国内の行動インサイトの活用事例を当てはめて例示してみることで、フレームワークの使い方をイメージし易くなるように試みているところ。

行動を理解した上での政策
(behaviorally-informed policy)
の立案・実践の手順 (案)



全体を通じた倫理的配慮

出典：第15回日本版ナッジ・ユニット連絡会議 資料1

① おもい

- ・ 国民・市民や社会のニーズは何か
- ・ 政策目的は何か
- ・ それは重要で優先度が高いか

Need recognition

② もんだい

- ・ 解決すべき社会課題は何か
- ・ その課題に人々の行動は関わるか
- ・ 問題となる行動が起こる原因は
- ・ 改善すべき成果目標は何か

Uncovering problem

③ ていあん

- ・ 従来の政策アプローチは何か
- ・ その他の考えられる政策オプションは
- ・ 費用や効果がより妥当なものはどれか
- ・ 効果を検証するための実験方法や体制は

Designing policies

④ ナッジ！

- ・ 実施体制は整っているか
- ・ 政策オプションを(小規模で)実践する
- ・ 定量的・定性的に効果を測定する

Generating results

⑤ しこうさくご

- ・ 効果を検証する
- ・ 結果を踏まえ、一連の過程を見直して改善する
- ・ 中長期的な効果を監視し、社会へのインパクトを測る

Evaluation & evolution